

マスクに守られた コンサートレポート

我孫子シニアアンサンブル、創立20周年記念第9回定演

去る6月12日（土）表記の演奏会が生憎のコロナ禍の中に催され、3密厳守とマスクに守られながら約300名のお客様のもと滞りなく完遂された。

当団は西暦2000年の8月、私が若冠66歳の時に千葉県第1号のシニアアンサンブルとして設立を呼びかけたが、当初は大正琴の人達が大勢押し寄せたり、正に波乱の船出だったが、それから20年よくここまで成長したものである。指揮者も4人交替している。長い間で思い出に残るのは北海道や広島を全国大会で旅行したり、NHKのラジオで放送されたり、東京新聞に載ったり、ヤマハ音楽振興会から表彰されたこと、悲しかったのは笹森先生の急逝である。

演奏は成島先生の手なれた指揮棒で第1部では演奏の難しいラデッキー行進曲、ショスタコービッチのジャズ組曲2番というあまり知らない曲などクラシックが4曲演奏された。相変わらずバイオリン、フルートの高音部が美しく、特にモーツァルトの25番がよかった。次に映画音楽に入り、おなじみの慕情、エデンの東、ディズニーメロディーが演奏されたが楽しかった。第2部は和製ポップスと海外ポップスに分けられて4曲ずつ演奏されたが、ブルーライトヨコハマ、また逢う日までの筒美京平の曲は特に楽しく、その後の“また君に恋してる”は、助川恭子さんのボーカルが入り、冬美ちゃんとは一味違うポップス調に感心した。

海外ポップスは最後のラ・クンパルシータが特によかった。アンコールは、ひばりのお祭りマンボ、ハイテンポで演奏の難しいこの曲を非常に楽しそうにリズムにのって場内を楽しませた。私は当日ほかの楽団から客演を依頼され当初は欠席する予定だったが、コロナの関係で延期をされたのでこの定演に伺ったが、プログラムに私の功績を大きくのせ、来賓席に着席した私を司会者が場内に紹介したりで身に余る光栄に預った。

私自身はこの団をここまで育成された、牧野前代表、上林代表、20年間も在籍されている金井明美、助川恵子さんや皆様を称えたい。（文責 全シ連 岡村）



やり遂げましたコロナ過定演 牛久シニアアンサンブル 田淵崇

令和2年度も最終日の3月31日（水）、牛久沼の畔り、目に染みる若葉の緑と桜花爛漫のもとで第二回定期演奏会を開催しました。本来は1年前の5月24日（日）に牛久市の生涯学習センター大ホールに千人の来演者を集めて行うことになっていました。

ところが3月よりコロナ過に対して緊急事態宣言の発令、練習場利用停止による練習態勢の不足を考え、11月、さらには令和3年の1月末に三度の順延を余儀なくされました。

三度目の1月27日開催は会場サイドと直前まで開催有無の打ち合わせとなりましたが、翌日からの緊急事態宣言にあわせての利用停止をコンコンと会場サイドからの説得を受け中止の断に至りました。

これで定演も諦めかと団員落胆の中、岡村代表が、3月末に定演はやるうとの発意宣言。急遽つくば市のふれあいプラザに会場を確保、定演開催にこぎつけました。

依然、コロナ過により会場サイドからの利用制限が厳しい状況でしたが、とりで・つくば・石岡・下妻各SE団より代表・副代表他の強力な支援態勢を頂き無事に終演にこぎつけました。今回は会場サイドより、来園者数を制限され、団員と支援団の紹介者のみに限定しました。

当日は、朝から昨夏よりご指導頂いてます新任の牧野先生のタクトで午前中いっぱいリハ練。かなりエネルギー使いぎりましたが、本番に強いのが評判の当団、うまく盛り返して万雷の拍手となりました。次回は2年後、今度はコロナの無い中だと願っています。

